

平成 28 年度 京都市立銅駝美術工芸高等学校 学校経営方針

平成 28 年 4 月 7 日

校長 吉田 功

<今年度の学校経営方針>

京都府の公立高校制度、入学者選抜制度の改革が行われてから今年度で 3 度目の入学生を迎える。目的意識をもって進路選択をし、本校に志願、入学してきた生徒一人一人の学びのモチベーションをさらに高め、力を引き出し、大きく成長させて進路を実現させる教育活動を進めていかなければならない。

京都市立高等学校において特色ある学校改革が進む中、本校においてはそれらに先行して 1 科 8 専攻への改革を行って 12 年が経った。この改革の検証と総括を踏まえ、今後の本校の教育活動を充実、発展させる学校の在り方について検討を重ね、昨年度末「将来構想のまとめ」を策定した。中学生が減少し、社会情勢が激しく変化する中で、長期的なビジョンとともに、中期・短期に取り組むべき具体的な改革の計画を明らかにし、学校力を向上させ魅力ある“Only One”の美術専門高校として発展していかなければならない。学校力の向上には、一人一人の生徒の大切な 3 年間を見据えた指導計画と豊かで丁寧な教育実践が要である。生徒の進路実現の目標を単に進路先への合格に終着させるのではなく、激動する社会において課題と向き合い、課題解決に他者と協働で取り組む自立した社会人、主権者となる青年として送り出すことが使命である。美術専門高校としてそのような総合的な実践力を育成することを目指し、平成 28 年度を本校のブランディングの再構築を始める「改革元年」と位置付ける。

<学校経営方針の柱>

信頼と共感の醸成 課題の共有とたゆまぬ実践

<学校経営の基本方針>

- (1) すべての教職員の個人の力を、組織的な学校力として機能させる。
- (2) 学校の中のあらゆる教育活動を、ねらいと目標を明確にして実践する。
- (3) 美術工芸科と普通科との連携、学年と教科・分掌との連携を強化・深化させる。
- (4) すべての教職員が学校運営に参画する意識を高め、校務の協働と継承を重視する。
- (5) 短期・中期・長期のビジョンを立て、やりがいをもってたゆまぬ実践を進める。

<指導を進める上での重点>

- (1) 生徒の学びのモチベーションを高め、ねらいと目標を明確にした「わかる授業」「主体的、能動的に学ぶ授業（アクティブ・ラーニング）」を実践する。
- (2) 校内 WiFi 環境、タブレットを活用した効果的な ICT 教育を進める。表現者として多様な学びを経験し、多角的な視野をもって専門性を高める教育を実践する。
- (3) 日常的に生徒をよく観察し生徒のニーズを的確に掌握する。気になる生徒、困りを抱えた生徒、課題のある生徒の情報を共有化し、時期を逸することのない組織的な対応を行う。
- (4) 生徒の自主性・自律性を高めるとともに、困りの支援をしながら生徒自身が自己の心身をコントロールできる力を育成する。
- (5) 集団の中で自他を尊重する意識、ルール、モラルを疎かにしない態度を育てる。いじめ、暴力など人権を傷つける行為を絶対に許さない指導を進め、人権文化を高める。